



ひびき

Letter of the M.Y. elementary school

南山田小学校だより

～ ともだちいっぱい かがやく子 ～

学校通信 NO.319
令和4年度 1月号
令和5年1月10日

復活の「虫送り」

校長 鈴木 智彦

あけましておめでとうございます。今年は、曜日の巡りあわせがよく、いつもより少し長い冬休みとなりました。気持ちも新たに、新年の誓いを立てた人も多いかと思えます。

笛や太鼓の音に合わせて「よーい よい」という掛け声が、中川中学校の体育館に響き渡ります。法被を着た保存会の方々の後からは、本校の児童がたいまつを掲げて練り歩いていきます。ステージに上がると、たいまつを中央に集め、その周りで獅子舞やひょっとこが踊り出します。「横浜市無形民俗文化財 虫送り」が復活した瞬間でした。

12月に行われた『中川中学校区ふれあいフェスタ』の一場面です。インフルエンザやコロナの影響で、今回は4年ぶりの開催でした。各学校の児童・生徒が合唱や合奏、実験動画等を披露する中、本校からは4年1組の有志が参加しました。



4年1組は、社会科で学んだ地域の伝統文化をきっかけに総合的な学習の時間として「虫送り」に取り組んでいます。「虫送り」の由来を調べるとともに、保存会の方々の思いを伺い、自分たちができることに取り組もうとしています。今回は、保存会の方々から「『中川中学校区ふれあいフェスタ』で実演するので一緒にやりませんか？」とお声掛けいただいたので、当日、都合のつく有志が代表で参加することになりました。

ここで、子どもたちは二つのチャレンジをしていました。一つ目は、「原稿を見ないで話す」というチャレンジ。二つ目は、「間を意識して話す」というチャレンジです。教室や気心が知れた仲間の前では出来ることも、多くの方々に注目されている場ではなかなか難しいです。しかし、それをやり遂げた達成感は、子どもたちにとって大きな自信となったのではないのでしょうか。

コロナ禍により、様々なことが影響を受けていますが、「この伝統を後世が継承し、いつまでも続けて欲しい」と願う先人の思いを紡いでいける、そんな年になることを期待しています。